

2010 年度共同利用・共同研究課題申請書（新規）

申請者(主査)： 石川 博樹

1. 共同利用・共同研究課題名	
和文	歴史的観点から見たサハラ以南アフリカの農業と文化
英文	Study on the Relationship between Agriculture and Culture in Sub-Saharan Africa in Historical Perspectives
2. 研究期間	2010 年度～2012 年度 (3 年間計画)
3. 共同利用・共同研究課題を実施する専任教員	(氏名) 石川 博樹 (役割分担) 主査 東部・中央アフリカにおける農業と文化の関連に関わる研究
(同上)	(氏名) 永原 陽子 (役割分担) 副査 南部アフリカにおける農業と文化の関連に関わる研究
(同上)	(氏名) (役割分担)
4. 共同研究員採択数	10 名程度
5. 共同研究員に求められる役割分担	本研究課題の研究会において共同研究の成果を報告し、最終報告書において研究成果を公表すること。
6. 共同利用・共同研究課題の概要 (400 字程度) (※要覧等広報の際にも利用・掲載します。)	
<p>サハラ以南アフリカ諸国の経済停滞が国際的な懸案となっている現在、大多数の国々の基幹産業である農業についての研究を一層深化させることが国際的に求められている。これまで我が国におけるサハラ以南アフリカ農業研究は、主に農学、人類学、経済学の研究者によって実施され多くの成果をあげてきた。本研究課題においては、これらの学問分野の研究者に歴史学研究者も加わり、サハラ以南アフリカ諸地域の農業と文化の関連について歴史的観点からの研究を共同で実施する。特に社会的・文化的に重要な役割を果たしてきたにもかかわらず未解明の課題が少なくない主食作物に関わる史的諸問題を広範に検討することによって、サハラ以南アフリカ農業研究の新たな研究領域の開拓を試みる。</p>	
7. 研究の目的 (400 字程度)	
<p>史料の乏しさゆえにサハラ以南アフリカにおける農業に関する歴史的観点からの研究が他地域に比べて制約が多いのは事実であるが、フィールドワークおよび文書調査で得られる情報を用いることによって研究が可能であることは言うまでもない。本研究課題の目的は、複数の学問分野の研究者がサハラ以南アフリカ諸地域の農業と文化の関連に関わる未解明の史的諸問題について共同研究を行い、それらの解明に努めることである。研究の実施にあたっては、キャッサバ、プランテン・バナナ、トウモロコシ、コメ、テフといった各地の主食作物に関する未解明の史的諸問題の検討に重点を置く。これらの主食作物の栽培と消費、そしてその利用を主体として醸成されてきた食文化について歴史的観点から分析することを通じて、輸出用換金作物に比べて相対的に研究が少なかった主食作物に関する研究の進展を図る。</p>	

<p>8. 研究の意義、特に共同利用・共同研究として展開することの意義（400字程度）</p> <p>主食用作物という人々の生活と密着した農作物に関する史的諸問題を重点的に検討する本研究課題は、植民地支配をはじめとするサハラ以南アフリカ諸地域が経験してきた様々な社会的変化のなかで農業が担ってきた社会的・文化的役割の解明に寄与すると思われる。これはサハラ以南アフリカ農業研究の新たな研究領域を開拓することにつながるものである。また農業と文化の関連についての歴史的観点からの研究は、農学、人類学、経済学、歴史学といった複数の学問分野の研究者が、それぞれの分野の研究手法や研究成果を融合して実施する必要のある、特に共同研究が求められる研究領域であり、本研究課題は共同利用・共同研究として研究を展開する意義が大いにあるものと考えられる。</p>
<p>9. 共同利用・共同研究として期待される研究成果、および共同利用・共同研究効果（400字程度）</p> <p>本研究課題においては、サハラ以南アフリカ農業研究に関わる複数の学問分野の研究者が密接な関連と総合的な理解のもとに共同研究を遂行することにより、各分野の研究手法および研究成果を補完し、融合した研究成果が得られるものと期待される。また本研究課題の遂行により、同じようにヨーロッパ諸国による植民地支配を経験した東南アジアをはじめとする他地域と比べて研究の蓄積が少ないサハラ以南アフリカ農業の史的諸問題に関わる研究を活性化させるとともに、依然として研究が盛んであるとは言い難い我が国におけるサハラ以南アフリカ史研究の基盤が強化されるという効果が得られるものと考えられる。</p>
<p>10. 研究の実施計画（800字程度）</p> <p>本研究課題は2010年度から2012年度までの3年間に年3回の研究会を開催し、以下の手順で実施する予定である。</p> <p>①現状報告 環境および歴史的背景によってサハラ以南アフリカ各地の農業の様態は多様であり、また学問分野によってそれを研究する上での分析手法および重点を置く研究対象も一様ではない。そのため本研究課題では主査が研究の趣旨を述べた後に、参加者が各自の専門とする地域の農業の様態、および各自の農業関連研究の内容について報告する。</p> <p>②研究資料・手法の検討 次にサハラ以南アフリカ農業研究に利用することが出来る文書についてその内容を検討するとともに、フィールドワークにおける聞き取り調査によって得られる関連情報の特質とその利用の在り方を考察する。</p> <p>③研究テーマの選定および研究の遂行 以上の作業を通して得られた知見を基にして、サハラ以南アフリカ諸地域の農業と文化の関連に関わる史的諸問題、特に主食用作物に関わるもののうち、各地域における社会的・文化的重要性が高く、かつ共同研究の必要性の高いテーマを選定して共同研究を実施する。研究によって得られた成果は本研究課題の研究会および参加者の所属学会において発表する。</p> <p>④最終報告 最終の研究会においてこれまでの共同研究で得られた成果を確認するとともに、それを踏まえてサハラ以南アフリカにおける農業と文化の関連に関わる研究の今後の課題を討議する。研究期間終了後、一連の研究成果をまとめた報告書を作成して提出する。</p>
<p>11. 研究成果の公開計画（200字程度）</p> <p>本研究課題の研究会は原則公開とする。共同研究で得られた研究成果は、本研究課題の研究会および参加者の所属学会で報告する。研究期間終了後、研究成果をまとめて報告書を作成するとともに、アジア・アフリカ言語文化研究所のウェブページおよび広報誌『Field+』においてその概要を広報する。さらに本研究課題における共同研究を基にしたサハラ以南アフリカ農業に関する論文集の出版に努める。</p>
<p>12. 応募者に求める提出書類</p> <p>本研究課題において共同研究を希望する研究テーマ</p>